

平成21年3月12日

## 日本格付研究所(JCR)による当行の格付について

武蔵野銀行(頭取 加藤喜久雄)では、平成21年3月12日(木)付けで日本格付研究所(JCR)から、当行の「長期優先債務」に対する格付が「A+」(シングル Aプラス)、「第1回期限前償還条項付無担保社債(劣後特約付)」が「A」(シングル Aフラット)として据置かれることが公表されましたので、お知らせいたします。

## 1. 格付区分

当行では、平成9年4月から、日本格付研究所による「長期優先債務」の格付を取得しております。「長期優先債務格付」とは、債務者(発行体)の債務全体を包括的に捉え、その債務履行能力を評価したものであり、当行の「長期優先債務」に対する格付「A+」(シングル Aプラス)は「債務履行の確実性が高い」という「投資適格」の評価であります。

一方、社債など個別債務の評価につきましては、債務の契約内容、債務間の優先劣後関係等も考慮して評価され、当行では平成18年9月の第1回劣後特約付社債の発行に当り取得したものであります。が、「劣後特約付社債」の格付は「長期優先債務」の1ノッチ下に評価されるのが通常です。

## 2. 格付理由

当行では、平成19年4月からの3か年計画期間とする中期経営計画「VALUE UP 21」において、目指す銀行像として「お客さま満足度No.1銀行」、「県民のベストリテールバンク」を掲げ、各施策を積極的に展開しております。

そうした中で埼玉県という競合の厳しいマーケットを地盤としつつも、①法人・個人向け融資ともに積極的に推進し貸出残高の伸びが高いこと、②預金残高も団塊世代の退職金や年金の獲得に注力し順調に増加していること、③与信費用は、新興不動産企業の破綻の影響を受け、対前年比大幅に増加する見込みであるが、不良債権比率は地銀平均を大きく下回る水準で貸出資産の健全性が高いこと、④相場環境の悪化に伴って預かり関係手数料が伸び悩みコア業務純益は前年同期比減益となったが、本業の収益力を示すROAは相応の水準を確保していること、などを評価し格付けは「A+」と据置されました。

しかし、見通しにつきましては、今後の埼玉県内の経済状況から与信費用の動向は先行きが不透明であり、保有有価証券に関しても、今後の金融市場の動向次第では更なる処理を迫られる可能性があることから、安定的からネガティブに変更となっております。

以上

報道機関からのお問い合わせ先  
総合企画部 田上  
TEL 048 (641) 6111 (代) 内線 2170